




西股山(1716.6m)、卒塔婆山
(1550m) 阿寺山地(木曾) (積雪期ビ
ークハント/縦走 / 中央アルプス)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年04月07日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

晴れ時々雪

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

6:41 ゲート--7:37 小川殿林道分岐--7:46 「至卒塔婆山」作業道その1--7:57 「至卒塔婆山」作業道その2--8:21 分渡沢白川林道分岐--8:35 山ノ神林道分岐--8:51 ベ口沢林道分岐--9:01 誤りに気付いて戻る--9:05 ベ口沢林道分岐--9:14 小沢林道分岐--9:25 白川林道支線--9:52 標高1500mで休憩 10:08--11:01 町村界稜線を越える--11:09 斜面取付--11:22 西股山--11:27 林道--11:31 標高1640mで休憩 12:03--12:42 分渡沢白川林道に合流--12:51 小沢林道分岐--12:55 ベ口沢林道分岐--13:07 山ノ神林道分岐--13:19 分渡沢白川林道分岐--14:02 廃林道--14:03 伐採地--14:27 鹿避け柵--14:45 卒塔婆山最高点--14:53 卒塔婆山三角点--15:02 伐採地--15:16 廃

林道--15:18 分渡沢白川林道(休憩) 15:41--15:56 白川林道--16:09 小川殿林道分岐--16:55 ゲート

コース状況/その他周辺情報:

- ・西股山、卒塔婆山とも登山道無し。登山ポストなし
- ・西股山は林道で山頂直下まで到達可能。ただし標高差約800m、片道約13km弱あり、日帰りするにも時間がかかる
- ・林道は起点にゲートあり
- ・林道は町村界尾根を越えて王滝村側まで延びているため西股山山頂直下200mまでアプローチ可能
- ・積雪のため笹藪皆無だったが、西股山南斜面は笹が盛大に茂っていた。山頂は植林で展望なし
- ・林道脇に「至る卒塔婆山 200林班」との標識がある作業道入口が2か所あるが、実際は山頂まで道があるわけではない
- ・卒塔婆山南斜面は伐採地で比較的藪は薄いのが、稜線近くは背の高い笹藪
- ・卒塔婆山最高点は東西に長く明確なピークはない。三角点は東方の小ピークにあるはずだが積雪と笹藪で発見できず。どちらも展望なし

📷 写真:



林道起点のゲート



林班界地図



京都大学の地震計。2か所で目撃



最初の「至卒塔婆山 200林班」標識



2つ目の「至卒塔婆山 200林班」標識。卒塔婆山からここに下ってきた



山ノ神林道分岐の造林小屋



造林小屋から先は除雪なし



橋を渡り右岸へ



白川林道支線



標高1500mで休憩



地図の林道終点を過ぎても
林道が続く



町村界尾根に上がる



南斜面は笹藪



町村界尾根を超えて北側へ
回り込む



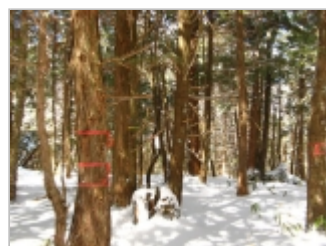
ここから斜面に取り付く。
積雪で藪なし



細い灌木が生える



檜植林が増えてくる



西股山山頂。檜植林で展望
なし



下山開始



北斜面を北東に下る



林道に出た



分渡沢白川林道分岐。ここ
かた卒塔婆山へ向かう



いい道が続く



林道から見た卒塔婆山



山頂真南付近で廃林道に入る



がれき置き場



もうちょっとだけ廃林道が
続く



伐採地入口



伐採地を登る



小さな沢の部分は笹が少ない



笹地帯



谷間を登る



もうすぐ伐採地上限



境界の鹿避け柵



濃い笹藪に突入



雪の載った笹藪を漕ぐ



卒塔婆山最高点。明瞭なピークは無い



卒塔婆山三角点峰(と思う)



下りも笹藪



明るい伐採地を目指す



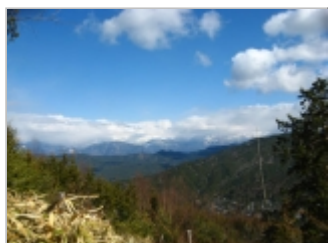
笹藪の尾根を見上げる



伐採地に出た



伐採地を見下ろす



雪雲がかかった中央アルプス



林道からこの刈り払いされた作業道を下った



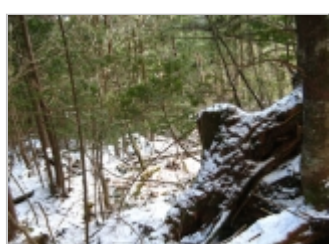
最初は道は明瞭



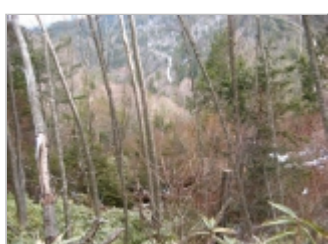
徐々に道が薄くなる



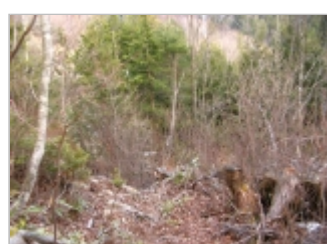
この付近は目印が無いとルート判別が困難



ルートが消えて適当に下る



再び伐採地登場



伐採地境界の作業道を下る



林道に出た。往路で見た標識あり

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

黒沢沿いの林道を延々と歩いて往復。地形図に書かれていないが西股山の東鞍部から北を巻くように林道が延長されており、山頂直下まで長距離の林道歩き。積雪で林道の詳細は不明だが大きく崩れた場所はなく、ゲートさえ無ければ山頂直下まで車に入れそう。ただし林道起点に施錠されたゲートがある。水平区間は自転車が有効利用できそう。残雪期に北斜面を登ったために藪の状況は不明だが、少なくとも山頂南斜面は盛大に笹が茂っていた。でも、林道から山頂まで短距離なので無雪期でも問題なからう。

卒塔婆山は林道に「至卒塔婆山」の標識が出た作業道入口があるが、たぶんどちらの道も標高1400m付近を巻く林道までで、その上部は道無し。南斜面は伐採地で藪は比較的薄いが、鹿避け柵を越えると背丈を越える笹藪。新雪後に登ったため頭から雪をかぶりながら藪漕ぎ。標高1550m等高線の山頂(最高部)は東西に細長く明瞭なピークはない。東の肩に三角点があるはずだが雪で寝た笹で確認できなかった。

今回は西股山と卒塔婆山をまとめて登ったが、林道歩きが非常に長く時間と体力が必要なため、通常は別々に登った方が良いと思う。

西股山は阿寺山地で木曾川の飛び出したピークで山名が記載された中では最高峰。登山道はなくこの標高で阿寺山地では笹藪必至だが、山頂近くまで林道があり、これを利用すれば藪漕ぎの距離は短くて済む。南斜面なので笹が濃そうだが・・・。林道は黒沢沿いにあるが起点にゲートがあるのは確認済みで、片道10km以上を歩かねばならない。ネットで記録の有無を検索したが、ヒットした1件はアクセス不能だった。

ゲート前は広く駐車可能。施錠されたゲート横の通用口?をくぐって長い林道歩きを出発。今も弱い雪が降っているが昨日はここでも本格的に雪が降ったようで林道は白いが、この標高では積雪は数mmしかなく問題ない。歩き出して10分程度で林班案内図があり林道名も出ていた。それによると西股山近くまである林道は白川林道支線と呼ぶようだ。あちこち分岐する林道名も書かれていた。

橋を渡る個所では地形図を見て現在位置を確認、3つ目の橋で目的の林道は右に曲がるが、そちらは「白川林道」、このまま直進は小川殿林道だった。一度高度を上げてヘアピンカーブを曲がると傾斜が緩む。少し進むと「至卒塔婆山 200林班」の標柱が立った作業道入口。まさか卒塔婆山山頂まで道があるのか？ いや、たぶん200林班に至る道なのだろう。そこから10分ほど進んだところにも形状は異なるが同じ表記の看板が。帰りに確認してみるかと思ったが、よく考えたら別の林道から登るのだからこの作業道を使うかどうかわからない。

地形図に小屋マークがある分岐には小さな造林小屋。分かれる林道は山ノ神林道だった。除雪は山ノ神林道がされていて、西股山に向かう林道は積雪だ。次のベ口沢林道分岐の橋を目的の林道が右岸に渡る橋と間違えて入ってしまったが、地図と道の付き方が違うことに気づいて10分程度のタイムロスで済んだ。

林道が右岸に移ると北斜面に変わり積雪が一気に増えて足が重くなり、出発から3時間以上経過しているので休憩、ワカンも装着。多少楽になったが軟雪区間は足が重い。周囲は唐松植林で落葉し、斜面に付いた林道がどう延びているのか見えたが、地形図の終点よりも先、沢を渡った先にも林道がつながっていた。沢を回り込んで南斜面に入ると雪の量は減って雪質が締まり歩きやすくなった。ここから山頂目指すのが最短距離だと思われるが南斜面は笹が露出しており、王滝村との境界尾根まで上って、残雪があるだろうその北斜面を登るのが正解と考え林道を進む。鞍部よりやや西で境界尾根を乗り越え、等高線に沿って林道は進む。北側斜面は予想通り残雪に覆われ笹は見えないが、もう少し西に進んで山頂が近付いてから林道を外れて斜面に取り付く。

この付近は大規模に伐採した後、植林せずに放置して自然に木が生えた状態のように感じられ、シラビソ、ダケカンバ、その他の落葉樹の細い木が密生していた。シラビソの葉には新雪が積もって枝に触れば頭から雪を浴びるため、できるだけ落葉樹の隙間を選んで登っていく。雪質は最悪化と思いきや、新雪はあるがその下の雪は締まって歩きやすかった。

標高が上がると檜植林に変貌、僅かに笹が顔を出しているがほぼ完全に雪に埋もれ障害物ゼロ。山頂部はなだらかで顕著なピークはなく、GPSの表示と木に巻きつけられた目印で場所を特定。積雪で三角点の確認は不可能だった。周囲は檜植林に囲まれて展望も日差しもない。休憩するには寒い場所なので林道に戻って日向で休むことにし、往路より少し東寄りに下って林道に出て、町村界稜線を南に下ったカーブで休憩。この時間帯は日差しがあり、ザックを下敷きにして横になったら30分くらい寝てしまった。

時間も体力も予想以上に消耗したので卒塔婆山は割愛しようかとも考えたが、せっかく長い林道歩きをしたので2度手間にならないよう計画通り片づけることに。造林小屋

を通過して「分渡沢白山林道(上重沢林道)」に入る。除雪されていないが南斜面なので雪は少なく足が軽い。標高1400m手前で横移動に変わり、その後下り始めた。GPSで山頂までの方位、距離を見ながら取り付き場所を考えていると右斜めに上る廃林道発見。林道の逆側(下り方向)は刈り払われた作業道があったが、その続きの上り方向には道が無い。廃林道がその代わりの可能性もあるとの考慮もあった。

廃林道は100m程度の短距離でがれきの置かれた平地の先で終わり、鹿避け柵に囲まれた伐採地が続く。伐採地の藪は少なく、柵内部に入るドアがあったので内部に入って茨藪を抜けて斜面を登る。僅かな水が流れるごく小さな沢沿いが最も藪が薄いのでそこを選ぶが、やがて笹藪に突入。しかし標高の影響が高さは腰から胸で高密度ではなく、視界が得られるのも助かった。

できるだけ藪が薄い個所は小さな谷間で、疲れた足で登っていくと伐採地最上部で再び鹿避け柵登場。それより上部は背の高い檜植林に変わると同時に背の高く高密度の笹藪も登場。立ち木を利用してどうにか柵をよじ登り、笹藪をかき分け始めるが新雪が乗って雪を被るようになり、ゴアを着たが手袋と袖の間から雪が入るため、カバーが長いオーバーミトンを追加装着。雪対策はOKになったが踏みつけた笹の上に乗りがらの藪漕ぎで頻りに足が滑ってコケる。

伐採地との境界付近が最も藪が深く苦勞するが、進むにつれて徐々に薄くなり調子が上がってくる。笹の高さも低くなって視界が開け、藪の薄い所を狙って登れる。谷間を登ってきたので左右両方に高みが見えるがまずは西側に向かう。稜線に出て傾斜が無くなると格段に藪漕ぎが楽になる。GPSの表示によると三角点までの距離は東に約200m。ピークは東西に長く最高点は不明確だが、とりあえず一番高そうな場所に立つ。発達した檜植林で全く展望なし。標識や目印も皆無だ。目印をつけようとしたが檜が太すぎて無理だ。地形図上の最高地点を後にして三角点を確認するため東へ進む。

笹藪でも傾斜の無い横移動は楽だ。新雪は多くはなく雪が埋もれるほどではないので笹をかき分けながらだ。部分的には笹が寝ている個所もあるが立ったままが大部分だ。小鞍部を越えて登った小ピークがGPSの示す三角点の位置だったが、寝た笹と雪で三角点探索は不可能だ。東隣の小ピークに目印が見えたので行ってみたが、地面付近は同様の状況でちょっと探したくらいでは三角点は見つからなかった。

場所をピンポイントで特定できたわけではないが最高点及び三角点峰は踏んだので納得の下山開始。笹が深くてコケ易いが登りとは比べれば大幅スピードアップだ。三角点峰から下ったので南に延びる小尾根に乗ったが、伐採地との境界線上で鹿避け柵が登場。柵の外は笹が深いので再び乗り越えて柵の内側へ。できるだけ歩きやすいところを広いつつ下っていくと往路で辿った小さな沢に到着。その先も藪があるので往路と完全に同じルートではないが、最後は柵のドアにピタリと到着した。林道に戻って休憩。

次は黒沢沿いの白山林道に乗り移るが、林道を歩くと距離が無駄になるので斜面をショートカットする。目の前には刈り払われた作業道入口があり、これを辿ればたぶん往路で見た「卒塔婆山 200林班」の2つの看板のうちどちらかに出ると予想。もしとんでもない方向に下ろされそうになったら適当に下ればいい。

作業道は最初は明瞭だったが進むに従い笹が薄くなると同時に不明瞭になり、目印が無いとルート判別が難しくなり、やがて全く分からなくなった。その頃には発達した檜植林となり藪皆無なので適当に下れたため、作業道は無視して歩きやすい所を下っていった。やがて右手に植林帯が登場、鹿避け柵も登場し、先ほどと状況が似ているが、今度は柵に沿って明瞭な作業道が登場した。辿っていくと林道に到着、往路で2つ目に見た標識の作業道だった。

あとは淡々と林道を歩くのみ。僅かに残った雪の上の足跡は私のものだけだった。ゲートに到着しても車は私の1台だけ。出発から10時間を越える行動時間は久しぶりで、歩いた距離は20kmを越えて膝が疲れた!

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>